

岐阜県岐南町の大樹さん

特別住民番号1566

大樹町の皆さん、初めまして！

私は昭和49年1月20日に岐阜県山県郡伊自良村で生まれました。小学生の頃、先生に「いい名前やねー」と言われて両親に名前の由来を聞いた事がありました。その時の父の返事は、こうでした。

「大樹と呼ばれる大きな木は、その名の通り大地にしっかり根を張って、何百年、何千年と生き、さまざまな世界を見てきたんだ。そんな大樹に、あやかってお前も、しっかりした強い子になって欲しい」と。

その父も昨年52歳で、この世を去りました。父が望んだ様な息子に育っているかどうかは分かりませんが私は現在、幼い頃からあこがれていた消防士という職業につき、レスキュー隊員として日夜、職務に励んでいます。特に四年前に発生した阪神淡路大震災の時には岐阜県緊急援助隊の一員として神戸市に出向き救助活動をした事は深く心に残ると共に尊い生命を守るこの仕事に誇りと生きがいを感じました。緊張感のある仕事も好きですが私の心を和らげてくれるのが最近購入したハーレーダビットソンです。非番日には趣味のカメラを持ってバイクにまたがり全国どこでも出かけています。そんな時「大樹町」という町に出逢う事ができました。いつの日か北海道ツーリングの折りには、是非「大樹町役場」へ、おじゃましたいと思います。その時は、どうぞ宜しく！

最後に「おやじ“大樹”と名づけてくれてありがとう」



広島県廿日市市の大樹さん

特別住民番号1567

我が家の長男は「大樹」と書いて「ひろき」と読みます。

現在、まだ2歳8ヶ月の元気な男の子です。

名前の由来というほどのものではありませんが、親なりに、こうあってほしい、という思いで名付けました。

大樹の「樹」という字は父親の一字をとったもので、どうしてもこの字を使いたいという思いがありました。そして考えた結果、決まったのが大樹でした。

男の子ですから、何事にも負けない大木のように、大きく、たくましい子に育ててほしい、という願いをこめました。

この先、どんな少年、そして大人になっていくかわかりませんが、とにかく、何にでも立ちむかっていける強さを、心のどこかに持っていてほしいと願っています。(父)



千葉県船橋市の大樹さん

特別住民番号1569

僕は1983年に千葉県船橋市で生まれ育ち、現在高校一年生です。学校では軟式野球と人文クラブに所属しています。大樹町へは家族旅行の途中に車で二度ほど通過したことがあります。父が大樹町から少々北にある更別で生まれて子供時代を過ごしたそうです。

おばあちゃんやおじいちゃんと今一緒に住んでいますが、その話によると戦争が終わる間際に空襲で焼けて住むところがなくなり、東京から集団開拓で更別に行って農業をやり、十年間位大変な苦労をしたそうです。でも東京が恋しくてやっとのことで帰ってきたそうです。その関係か北海道へは家族で数回、いつも夏休みに遊びに行っています。旅行ではすごく良いところに思いますが、昔の話を聞くと冬が長くて住むには大変なのかなとも考えます。



大樹の名前の由来ですが父に聞くと、生まれる時数件の候補があったようですがその中に大樹はまだ入ってなかったとのこと。そして誕生してから名前を届けるまでの間に、友人から考えてもらったが大樹という名前にしたらどうかと、おじいちゃんからお父さんのところへ話があったそうです。それは僕の姓は千木(ちぎ)といいます、その千本の木が将来大樹になるようにとのこと。その時お父さんは生まれ故郷の近くにも大樹という所があったなと一瞬考えたそうで、そこでその他の候補名を押さえて大樹に決まったそうです。

参考に千木とは辞書を引くと神社の屋根の交差している木のことをいうそうです。

木は成長するのに大変長い時間がかかります。大樹になるのはその中でも数が少ないと思います。僕は将来どんな人になるかわかりませんが、名前の由来に負けずにゆっくりでもいいから一步一步時間をかけて成長していきたいと思います。

僕の名前と縁のある大樹町へは、成人してから自分で一度行ってみたいところの一つです。

東京都町田市の大樹さん

特別住民番号1575

我が家の大樹(ひろき)は平成9年6月3日生の2歳。二人姉弟で四歳の姉がいます。

命名は上の娘がおなかの中にいる時に、パパが夢をみてそれで決まりました。その夢は自分の子が二人出てきて、上の女の子を「あいちゃん」、下の男の子を「ひろくん」と呼んでいるものでした。その通り最初の子は女の子で「あいちゃん」と呼べる名にしました。そして二人目も夢の通り男の子だったので「ひろくん」と呼べる名前と考えました。



おなかの中にいる時から大きめの子だと言われていたので「ひろ」は「大」と決めました。そして「大」を使う名前「ひろき」を考え、男の子なので樹木のように大きくたくましく育てほしいと「樹」の字も使い「大樹」となりました。

実際生まれてみると3,996gのジャンボベビーで名前の通りの子でした。今も大きく育てています。これからも名前通り、大きく樹木のようにたくましい、男の子らしい子に育てほしいです。(父)

新潟県三条市の大樹さん

特別住民番号1578

「名前」、親が子へ贈れる最も大きな宝物。親になる時、誰もがどういう名にするか悩む。悩んで悩んだ末に、思いを込めた名を贈る。

11年前の5月22日、小雨ふる日。「14時52分、2,950グラム、男子無事出産」の報を父から受け、無事生まれてくれた喜びと親になるのだという緊張を味わった。初めて会う我が子は、細く小さいながらも保育器内で全身を動かして存在を主張していた。赤ちゃんにどう呼びかけようものかと迷っていたが「元気にがんばれ」と心の中で熱く話しかけた。



翌日から「かしこい名前の付け方」の本三冊と大漢和辞典を使い、小学校の漢字ドリル練習以来の猛勉強が始まった。字画は、気にしなかったが語呂のいい濁音のないカッコイイ名前を付けようと意気込んでいた。確か「拓真・北斗・勇斗」などであったと思う。選択に迷った時、母から「親になるのは簡単だが親であり続けるのは難しい。」とのことと言われ、上べしか見ていない自己の考え方の甘さ、薄さを思い知らされた。親であり続けるためには、何が必要なのだろう。知識か。知識だけではだめ、経験か。親の経験はまだしていない。私がこの時に得た結論は、「子から真摯に学ぶことにより、自分が知識・経験を積み、子と共に成長していこう。」ということだ。平凡で普通であっても子のすこやかな成長に願いを込めて、名付けようと意識が変わっていった。大樹、大をひろと読ませ、広く大きい心を持ち、大地にずっと根を下ろし、上へ上へと伸びようとする樹のごとく成長していつてもらいたい。

大樹町は、夢とロマンあふれる自然の豊かな町と聞く、日本一の清流「歴舟川」、原

生花園、山あり海あり、湖沼ありの自然の宝庫。大樹も自分と同じ名の町があることに誇りをもっている。

ぜひ、来夏には、家族で貴町を訪ね、その豊かな大樹にふれることを楽しみにしている。最後に、エピソード集製作に応募できたことに感謝申し上げて結びとする。(父)

山梨県甲府市の大樹さん

特別住民番号1597

世間一般によくある話です。

生まれる前から、男の子が生まれたら、女の子が生まれたら、こんな名前にしよう!!

女の子だったら、かおりがいいと、男の子だったら母が大ファンの石原裕次郎の一字裕と父の名前の樹をつかい、裕樹(ひろき)と読ませたいと考えていたそうです。



昭和49年4月21日、午前8時35分、僕が生まれました。そこで父方の祖父に相談したところ「ひろき」とするなら、大きく育つように「大」をひろと読み、大樹と名付けたそうです。

小さな林が大きな樹になるように祖父の願いがこめられて、この名前が命名されたので、名に負けないように頑張ります。

大樹町のこれからの益々の御発展を願っております。

北海道浦幌町の大樹さん

特別住民番号1603

私が大樹町という地名を知った時に、伸び伸びとした字の地名だと思い自分に子供が出て、男の子だったら、絶対これだと思いました。

字画なんて関係なく、ただ、まっすぐ、素直で、大きく、育つような気がしました。ただ読み方を変えなければ何かもの足りない様な気がして「ひろき」と命名しましたが、ひろきと呼んでくれる人がわりと少なくよく読み方を間違えられます。でも本人は、自分の名前を気に入ってくれているようなので、良かったと思っています。

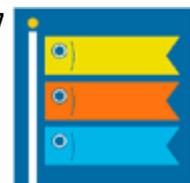


生まれた時は、小さめだったのですが今は16歳の高校一年生、帯広の学校に行っているの以下宿をしています。(母)

鹿児島県国分市の大樹さん

特別住民番号1604

全国のみなさん、はじめまして。我が家の長男大樹は、平成7年3月27日、埼玉中央病院で生まれました。長男といっても、上に二人の姉がおり、三人目として誕生しました。病院の看護婦さんが言われたように、二人目、三人目になると大きく生まれやすいという教科書通り、3,844グラムという大きな赤ちゃんでした。丁度、授乳の時間で他のお母さん方が授乳室に集まっている時に生まれて、新生児室に連れて来られたため、生まれた時から注目されることになりました。母親の私も、授乳室に翌日入った途端、「あの大きい赤ちゃんのお母さんですか?」と言われてしまいました。



そんなことから、名前を付ける時になって、大きく生まれてきたのだから、「大」という字を使った方が良いということになりました。皆で、「大」という漢字のついた名前をあげていって一番ぴったり合うものを搜しました。その結果、選ばれたのが「大樹」でした。読み方は「たいき」としました。

北海道に大樹町があることは、夫が北海道出身であったこともあり、知っておりました。特別住民の話は、私の実家(秋田)の母から教えてもらい応募しました。

私たちは今年の春、転勤のため神奈川県藤沢市から鹿児島県国分市へと引越しま

した。北海道とはだいぶ離れてしまいましたが、特別住民の大樹は、幼稚園年中組で新しいお友だちと元気に遊んでいます。いつか、家族で大樹町を訪れてみたいものだと思います。全国の特別住民の皆さんもお元気でお過ごし下さい。(母より)

東京都小金井市の大樹さん

特別住民番号1608

皆さん、はじめまして、山内大樹の母です。

大樹は今、1歳6カ月になりました。毎日、午前、午後と公園に遊びに出掛けています。歩くことが楽しくて楽しくてしょうがないようです。

私は、出産は大変なことです。生んだ後、“いいお産だった。また産みたいなあ”という気持ちになれる出産、そして、今まで赤ちゃんをさわったことがないので、病院を出るまでに一人前に赤ちゃんの世話ができるよう指導してくれる病院を私なりに選びました。しかし、実際は、安定期などなく、お腹が張り、いつも安静の日々でした。9カ月に入り、お腹が張ると赤ちゃんの心音が下がるということで検査入院になりました。結局“検査することなく、これだけお腹が張るのだから、今、出産すれば、赤ちゃんは元気です。”と言われ、次の日に帝王切開で出産になりました。私が帝王切開になるなんて思いも寄らなかったのも、心の準備もないまま親になってしまいました。出産後、ドキドキと震えが止まらず、はじめて赤ちゃんに会い、抱っこした時に、ドキドキや震えはなくなりました。不思議と幸せ一杯に包まれました。赤ちゃんは小さく、2,322gでしたが、保育器に入ることなく、元気に泣き、おっぱいもがんばって吸っていました。在り来りですが、こんなに小さい赤ちゃん、無事、大きく育ててくれることを願い、「大樹」とつけました。樹々のように、大地に根をはり、何度も葉をつけかえ、大きくなるように、この複雑な世の中に負けず、自分の考え方を持って生きてほしいと思います。

大樹が生まれ、0歳の時に、大樹町からの特別住民募集があり、嬉しく応募しました。大樹が、もう少し大きくなったら、「大樹町」へ遊びに行きたいと思います。(母)



北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1611

大樹が生まれる前年に道北・道東方面を旅行し帯広から襟裳岬へ車を走らせていると、青々とした広い大地と澄んだ空気の中「大樹町」の標識が目飛び込んで来ました。その時にテレビコマーシャルで流れていた「この木何の木気になる木」と大きな声で歌ったものです。

翌年、大樹が誕生する訳ですが、中島として生まれて来るのは女の子ばかりで、中島の姓が途絶えてしまうと話していたところに男の子が誕生し大変喜びました。

命名の段階になると大樹町の風景を思い出して、雨や嵐に負けない大きな樹に育ててほしいと願い命名しましたが、今では腕白すぎて手に負えない毎日です。(父)

